

子どもたちに食育活動を通じて「身体」で農業を感じてもらい、食や農業の大切さを伝えていきます。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

幼い頃から父の運転する農業機械と一緒に乗ったり、農業の手伝いをしていたのでいずれは農家を継ぐのかなと心の中で思っていました。しかし、すぐに就農するつもりはなかったため、高校卒業後は税理士の専門学校へ進学しました。その後、父に農業をしないかと声を掛けてもらったことをきっかけに、20歳から農業を始めることになりました。

現在は、主に妹が育苗管理と精米工場の運営、私と父が田植えや収穫などの農作業と役割を分けて取り組んでいるので、集中して仕事を行うことができます。



2 仕事をするうえで大切にしていること



自社で除排雪事業も展開

現在、会社を設立し、農業を基盤に生産から加工、販売、流通を行い、さまざまな雇用を生みだしていますが、人手不足が深刻化しています。特に農業は人材確保が難しいので、雇用する立場として、スタッフが居心地よく働ける環境づくりを目指しています。

休みや時間の融通が利くように職場環境を整備することでスタッフの結束力が高まり、生産性の向上につながります。楽しみながら仕事に取り組んでもらい「この会社ですと働きたい」と思ってもらえるように環境を整えています。

3 食育活動について

毎年、岩見沢市内の小学5年生を対象に食育活動を行っています。農業体験前に米について知識を深めてもらうと、座学で授業を行い、その後、田植えや稲刈り、脱穀、精米作業と1年間を通してどうやって食卓に米が届くのか実際に体験してもらっています。

パンや麺類の普及により米離れが深刻化している今だからこそ、子どもたちに普段できない経験をしてもらい、食の大切さや農業への親しみを感じてもらいたいです。



人物 memo

岩見沢市栗沢町上幌
中西 良貴 さん(37歳)

父の良明さんと妹の美穂さんを中心に約27畝の農地に水稻を栽培。次世代を担う子どもたちに向けて食や農業の魅力を伝えるために食育活動に力を入れています。